

所 報

一九八三年一月から十二月までの期間における社会科学研究所の諸活動を報告する。

一 機構および人事

(一) 所員総会

1 第四一回定例所員総会（一九八三年六月一日、神田校舎12 A会議室）

- 議事 (1) 隅野隆徳所員を議長に選出、(2) 三輪所長あいさつ、(3) 新所員の委嘱、(4) 一九八二年度事業報告、決算報告、会計監査報告——以上の諸報告を承認、(5) 三輪所長あいさつ、(6) 一九八三年度事業計画案および予算案を原案通り承認決定。
- 2 第四二回定例所員総会（一九八三年二月一日、神田校舎13 A会議室）
- 議事 (1) 近藤享一所員を議長に選出、(2) 三輪所長あいさつ、(3) 一九八三年事業経過報告および会計経過報告、(4) 一九八四年度事業計画案および要求予算案を原案通り承認決定。

(二) 運営委員会、事務局の構成

今期（一九八三、八四年度）の運営委員会と事務局の構成

は次の通り。

運営委員会——三輪芳郎所長、佐藤博所員（総合理論部長）、石渡貞雄所員（現状分析部長）、加藤幸三郎所員（歴史部長）、望月清司経済学部長、吉岡恒明所員、福島新吾所員、麻島昭一所員、殿村晋一所員、内田弘事務局長。（会計監査今田治弥所員）

事務局——〈事務局長〉内田弘、〈研究会担当〉小沼堅司、溝田誠吾、宇都栄子、池本正純（社研プロジェクト担当）、矢吹満男（同）、〈編集担当〉柴田弘捷、福島義和、上村達男、黒田彰三、〈文献資料担当〉作間逸雄、沢野徹、〈財政担当〉泉武夫、室井義雄、以上一四所員。

(三) 所員・所外研究員の移動

第四一回定例所員総会に先立つ運営委員会（六月一日）の議を経て、次の六名の新所員が委嘱された。熊野剛雄（経営）、嶺井正也（経営）、儀我壮一郎（経営）、小林直樹（法学）、遠山茂樹（法学）、高柳信一（法学）の六氏。

また内田義彦、古島敏雄、山田一郎の三氏は一九八三年三月三十一日をもって本学を退職されたので、所員の委嘱を解き、運営委員会の議を経て所外研究員に委嘱された。

玉城哲所員が七月二日急逝された。慎しんで御冥福を祈ります。

以上により第四一回定例所員総会時における所員は一〇一

名、所外研究員は二二名である。

二 研究活動

(一) 定例研究会

- (1) 一月二八日(金) 生田社研
「イギリス労働問題瞥見」報告者、加藤佑治所員。
- (2) 二月一八日(金) 生田社研
「小林直樹著『憲法第九条』をめぐって」報告者、小沼堅司所員、小林直樹法学部教授。
- (3) 五月二八日(土) 神田12A(社研プロジェクトと共催)
「一九八三年度財政投融資の分析」報告者、新藤宗幸所員、
「金融システムとしての財政投融資の問題点」池本正純所員。
- (4) 六月四日(土) 生田社研(社研プロジェクトと共催)
「農政理論と現代日本」報告者、石渡貞雄所員、コメント
イター、玉城哲所員。
- (5) 七月一日(金) 生田社研
「内田弘著『経済学批判要綱の研究』をめぐって」報告者、
矢吹満男、伊吹克己の二所員。
- (6) 十一月一九日(土) 神田社研分室、(社研プロジェクト
と共催)
「現代の日本公企業の特質」報告者、儀我壮一郎所員。
- (7) 十二月二六日(土) 神田社研分室

「東南アジア諸国の政治の現局面」報告者、鈴木佑司法政
大学教授、「南アジアの現状」報告者、Y・C・シムハド
リ氏(インド・アンドラ大学)。

(二) 社研プロジェクト

- (1) 三月一―二日 社研プロジェクト合宿研究会
① 社研プロジェクト会議、三月一日(火) 私学会館。
② 物流実態調査見学会、三月二日(水)
 - 1、西友ストア是政物流センター(是政)
 - 2、伊藤忠系列アパレル流通センター(三鷹)
 - 3、国分商店(食品)流通センター
 - (2) 二月一〇日(土) 神田社研分室
シンポジウム「金融自由化と政策金融のあり方」報告
者、奥村洋彦氏(野村総研)、牧野義司氏(毎日新聞)
- ### (三) 特別研究会
- (1) 四月四日(月) 神田校舎8B会議室
「現代日本経済の二重構造をめぐって——中国社会科学院
日本研究所訪日団(団長、李公緯氏ほか四名を迎えて)」報告
者、三輪芳郎、二瓶敏所員、司会、内田弘所員。
 - (2) 夏季合宿研究会、七月二三日、伊東市「光風閣」
「マルクス没後百年に寄せて」
第一部「フランス現代思想におけるマルクス主義」報告

者、伊吹克己所員、コメントイター、小林保則氏（東京理大）

大) 第二部「総合テーマ・マルクスと現代社会諸科学」

- a、農業経済学の領域から、石渡貞雄所員
- b、経済史の領域から、加藤幸三郎、泉武夫の二所員
- c、労働経済学の領域から、加藤佑治所員
- d、政治思想史の領域から、小沼堅司所員

第三部 討論 司会、内田弘所員。

(3)故・玉城哲所員追悼研究会、一〇月八日(土)、神田校舎12A会議室。

I 開会の辞、三輪芳郎所長

あいさつ 高橋七五三所員

「玉城哲——人と学問」、鶴田俊正所員

II 「第三世界」にからめて、室井義雄所員

「玉城哲さんの日本村落の再検討をめぐって」、西川善介所員

善介所員

「編集者としてのつきあい」、森下紀夫論創社社長

「昭和二〇—三〇年代の玉城哲」、関矢礼二「エコノミスト」編集委員

閉会の辞、石渡貞雄所員。

(四) 所員の聞き書き

内田義彦元所員、大友福夫、西田勲両所員の聞き書き作業が

進行中である。

(五) グループ研究助成

一九八三年度は次の六件に助成された。①⑤は「助成規定」のA、⑥はBである。

①「国際経済学の諸問題」(作間逸雄所員(代表)ほか八所員、一九八一年度発足)

②「再生産論の現代的意義」(矢吹満男所員(代表)ほか八所員、一九八一年度発足)

③「地方都市の果す経済機能の理論的および経験的研究」(蔵下勝行所員(代表)ほか四所員、一九八二年度発足)

④「経済理論とリアリティ」(平川東亜所員(代表)ほか六所員、一九八二年度発足)

⑤「企業内教育および労働組合員教育の歴史と現状」(柴田弘捷所員(代表)ほか五所員、本年度発足)

⑥「明治国家の研究」(隅野隆徳所員(代表)ほか六所員、本年度のみ助成)

(六) 個人研究助成

一九八三年度は次の五件を助成する。なおこの助成には、原則として交付年度より起算して三年以内に本研究所が指定もしくは承認した公表誌に研究成果を公表する義務が課されている。

① 伊吹克己所員「現代フランスの社会思想におけるマルクスとフロイトの理論の役割について」

② 常行敏夫所員「ビュリタニズムと科学思想」

③ 福島義和所員「オフイス産業と都心部形成」

④ 溝田誠吾所員「現代巨大企業における下請制の構造変化の実証研究」

⑤ 八林秀一所員「帝政期ドイツ労働者についての歴史的研究」

(七) 『専修大学社会科学研究所月報』の刊行

二三四号(一九八三年一月)

溝田誠吾所員「造船業の企業類型」

二三五号(同年二月)

内田義彦所員「専修大学最終講義・考えてきたこと、考えること」

二三六号(同年三月)

古島敏雄所員「専修大学最終講義・道と車―近世交通史の一齣」

二三七号(同年四月)

西岡幸泰所員「公的年金改革論の動向」

二三八号(同年五月)

柴田弘捷所員「不況下の経営・地域・労働者(1)」

二三九号(同年六月)

森宏所員、Japan's Beef Industry with Emphasis on Beef Import

二四〇号(同年七月)

石渡貞雄所員「現代日本農政試論(1)」

二四一号(同年八月)

石渡貞雄所員「現代日本農政試論(2)」

二四二号(同年九月)

伊吹克己所員「認識論的切斷」について」

二四三号(同年一〇月)

白柳夏男所員「理想の相克―社団法人実費診療所の運営をめぐって」

二四四号(同年十一月)

柴田弘捷所員「不況下の経営・地域・労働者(2)」二四五号(同年十二月)

故・玉城哲所員追悼号(執筆者、三輪芳郎、高橋七五

三、室井義雄、森下紀夫(論創社社長)、関矢礼二(毎日

新聞社)、石渡貞雄の諸氏、諸所員)

(内田弘記)